

注意

当資料にてNT61□GをNS8に置き換えるには、以下の条件が必要です。

1. NS8本体のシステムバージョンがVer7以上であること
2. NT31C_631C置き換え支援ツールがVer4.10以上であること

NT61□G→NS8置き換えガイド

置き換え対象機種

形式	通信方式
NT61□G-DT211(B)	上位リンク (RS-232C)
	NTリンク(1:1) (RS-232C)
	C200H I/F (ダイレクトアクセス)

リニューアル推奨機種

形式	通信方式
< TFT カラー液晶 > NS8-TV00(B)-V2	上位リンク (RS-232C)
	NTリンク(1:N) (RS-232C)

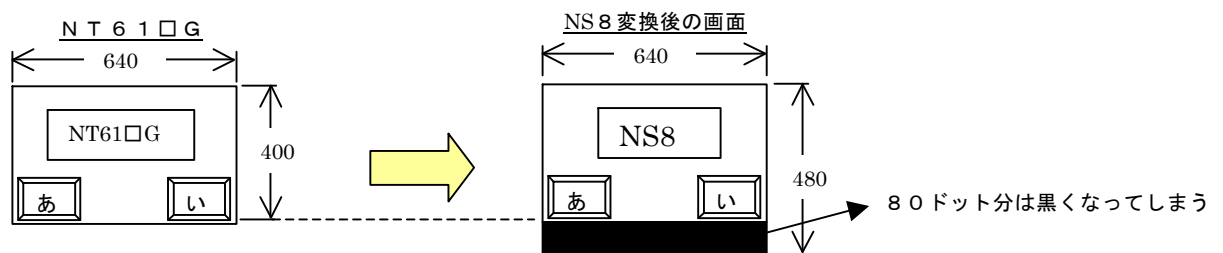
注) 通信方式がSYSMAC BUS/2の場合、NS8への置き換えはできません。

形式	通信方式
< EL > NT61□G-DT211(B)	三菱A 計算機リンク (RS-232C)
	三菱A 計算機リンク (RS-422A)

形式	通信方式
< TFT カラー液晶 > NS8-TV00(B)-V2	三菱A 計算機リンク (RS-232C)
	三菱A 計算機リンク (RS-422A)

<置き換えに際しての注意点>

- ◆ 電源電圧がAC100VからDC24Vに変更になりますのでご注意ください。
- ◆ NT61□GとNS8ではパネルカット寸法が異なります。
別売りのアタッチメント形NS8-ATT02 (P19参照)を使用することで既存のNT61□GパネルカットにNS8を設置できます。
- ◆ NT61□G (640×400ドット)とNS8 (640×480ドット)では表示解像度の違いにより、コンバートソフトによる画面変換ではNS8変換時に画面の下側80ドット分が黒く変換されます。



◆ NS 8 に変換後、各画面をグループ化し画面右下をつまんで 80 ドット分を引っ張れば、NS 8 の画面全体表示が可能になります。

但し、タッチスイッチ／ランプのフォントの大きさを除き各部品は縦に $480 / 400 = 1.2$ 倍の大きさになります。

詳細は P 12 の「1-3-1) [3. NS 8 画面データの修正](#)」を参照して下さい。

◆ NT 61□G の C200H I/F 通信方式で「ダイレクトアクセス」の場合は、NS8 の上位リンクあるいは NT リンクに置き換えられます。上位リンク／NT リンクへの置き換えにあたっては、既設 PLC 側の RS-232C ポートが必要になります。

詳細は P 18 の「1-3-2) : C 2 0 0 H I / F 置き換え時の注意点」を参照ください。

◆ 画面データが「コマンド方式」の場合は、タッチスイッチ／ランプが番号方式ですので、NS 8 に変換後各部品のアドレスが未設定で変換されます。

また、「コマンド方式」の場合、PLC ラダー側で NT 61□G の動作を制御していますので NS 8 に変換の際は PLC ラダーの修正が必要になります。

「コマンド方式」の制御方法については、「NT シリーズ 上位リンク・C 2 0 0 H I / F ユニット ユーザーズマニュアル データメモリ機能編」(SBPA-565□)を参照してください。

◆ 通信方式が SYSMAC BUS/2 の場合、NS 8 への置き換えはできません。

PLC の通信方式を NT リンクに変更する等の検討をお願いします。

画面データは C 2 0 0 H I / F と同様に NS 8 への変換は可能です。

◆ 通信方式が RS-232C の場合は、NS 8 のメモリリンクへの置き換えが可能ですがコマンドが大きく異なりますので、上位側プログラム変更が必要になります

コマンドに関しては下記マニュアルを参照願います。

NT 61□G : 「NT シリーズ RS-232C/422 I/F ユニット ユーザーズマニュアル」(SBPA-556□)

NS 8 : 「NS シリーズ 外部接続マニュアル」(SBSA-518□)

NT 61□G-DT 211 (B) (EL) の画面データを NS 8 に変換する場合、NS 8 の画面を EL 画面と同じ「橙と黒」に変換することができます。
詳細は P 10 の「3. NS 変換画面を EL 色 (橙と黒) で変換したい場合」を参照ください。

1-1 : NT61□GとNS8の主な仕様について

置き換え機種 : NT61□G-DT211 (B)

NT61□G-DT211(B)とNS8-TV00(B)-V2の主な仕様は以下のとおりです。

項目	NT61□G-DT211(B)	NS8-TV00(B)-V2
外形寸法(W、H、D)	325×198×98mm	232×177×48.5mm
推奨パネルカット寸法(横×縦)	314×186.5mm	220.5×165.5mm
表示デバイス	EL	カラーTFT液晶
有効表示エリア(横×縦)	192×120mm (8.9インチ)	170.9×128.2mm (8.4インチ)
表示ドット数(横×縦)	640×400ドット	640×480ドット
視野角	-	上50° 下60° 左右:±65°
定格電源電圧	AC100V	DC24V
消費電力	40VA以下	25W以下
使用周囲温度	0~50°C	0~50°C

NT61□G-DT211 (B) と NS8-TV00 (B)-V2 に関しては以下の違いがありますのでご注意ください。

1) 外形寸法について

外形寸法はNS8の方が小さくなります。

(W : 93mm小さい H : 21mm小さい D : 49.5mm小さい)

2) パネルカット寸法について

NS8のパネルカットはNT61□Gより小さくなります。NS8置き換えかえの際は、別売りのアタッチメント形NS8-ATT02 (P26参照)を制御盤に取り付けることで既存のNT61□GパネルカットにNS8を設置できます。

3) 表示部の見栄えについて

NT61□GとNS8では表示デバイスも表示ドット数も違いますので見栄えが大きくかわります。

4) 電源について

電源電圧がAC100VからDC24Vに変更になります。別途DC24V (25W以下)電源をご用意願います。

5) 盤内配線について

電源端子台や232Cコネクタの配置が異なっていますので、ご注意願います。

1-2 : NT61□Gの画面データコンバートについて

NT61□Gの画面データはダイレクトにNS10に画面コンバートできます。

NT61□G (ダイレクト Ver4) →NS10

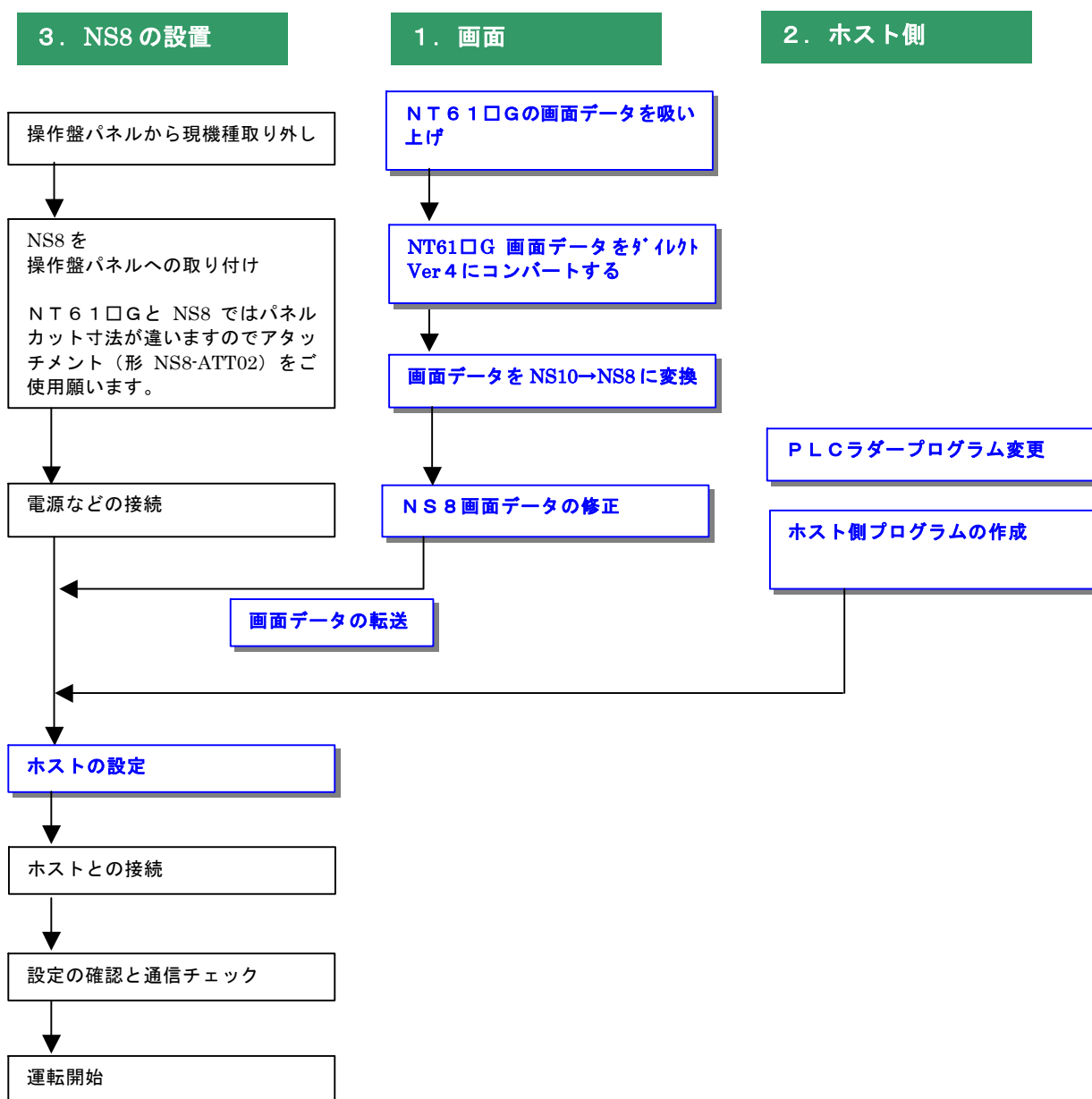
但し、NT61□G画面データのダイレクト Ver を Ver 4 にコバートする必要があります。

詳細はP5の「1-3-1) : 画面の置き換えについて」を参照願います。

1-3 : NS8へのリプレースの手順

NS8へのリプレースは以下の手順に従って置き換えて下さい。

NS8にリニューアルするまでの手順



1-3-1) : 画面の置換えについて

画面の置き換えに際しては以下のサポートツールが必要ですのでご用意願います。

■ 必要なツール

- ・ NT 統合ツール
形 NT-ZA3DV-V2 (DOS/V 版)
- ・ NT シリーズサポートツール Ver4 for Windows
形 NT-ZJCMX1-V4
- ・ NS 用作画ツール CX-Designer (Ver2.1 以上)
形 NS-CXDC1-V1
- ・ パソコン接続ケーブル
RS-232C 接続ケーブル 形 XW2Z-S002
USB シリアル変換ケーブル 形 CS1W-CIF31

1. NT61□G画面データの吸い上げ→ダイレクト Ver4 にコンバート

NT61□Gの画面データには、画面データのダイレクトアクセスバージョンとして「ダイレクト：ナシ Ver1」と「ダイレクト：オムロン Ver1～Ver4」の大きく2種類があります。「ダイレクト：ナシ Ver1」の場合は、画面データに直接PLCアドレスが割りついていませんので、最終的にNS8に変換後、各部品にアドレスを入力する必要があります。

NT61□GからNT統合ツール形NT-ZA3DV-V2(DOS/V版)にて以下の手順で画面データを吸い上げてください。


◆NT統合ツール(DOS版ツール)にて画面データを吸い上げる

DOS版のNT統合ツール(形NT-ZA3DV-V2)を使用します。画面データを吸い上げ、その後「ダイレクトアクセス:オムロン Ver4」に変換し、NTSTツールにてインポートします。

1. NT61□Gとパソコンを接続します。
2. NT統合ツール(形NT-ZA3DV-V2)を起動しします。
パソコンの電源をONしてDOSを起動します。
「CD¥NT 」でカレントディレクトリをNT統合ツールのディレクトリにします。
下線部(¥NT)には、NT統合ツールをインストールしたディレクトリ名をを指定してください
「NT 」と入力してください。
3. NT61□Gを転送モードにします。
NT61□Gの画面の4隅のうち任意の2点を同時に押してシステムメニューに入り、[転送モード]を選択します。
4. NT統合ツールの「ファイル一覧」を表示します。
5. 画面のファンクションキーのメニューの中の[受信] (F7) を押すと、受信動作が開始されます。

ガイドメッセージ
受信データファイルと タイトルを入力してください ファイル名 [] タイトル []

受信データを格納するフ
ァイル名を入力し、

を押してください

受信が終わると、「データ受信終了」のガイドメッセージが表示されます。
何かキーを押して、「ファイル選択画面」に戻ります。

◆ダイレクトアクセスバージョンをVer 4にコンバートする

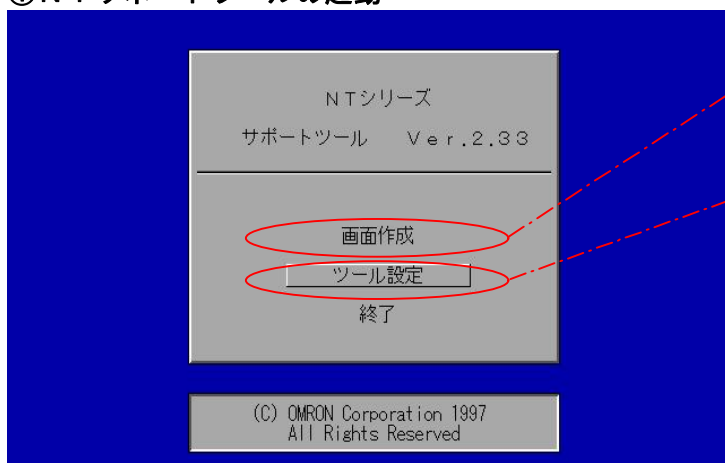
NT61□G のデータは以下の経路で NS10 に変換します。

NT61□G (ダイレクト Ver□) → NT61□G (ダイレクト Ver 4) → NS10

NT61□G を NS10 に変換するには、DOS 版ツールで NT61□G 画面のダイレクトアクセス
Ver を Ver 4 に変換する必要があります

以下の方法で NT 6 1 □ G 画面データのダイレクトアクセスバージョンを Ver 4 に変換してく
ださい。

① NT サポートツールの起動



1) NT サポートツールを起動し、画面作成
を実行します。

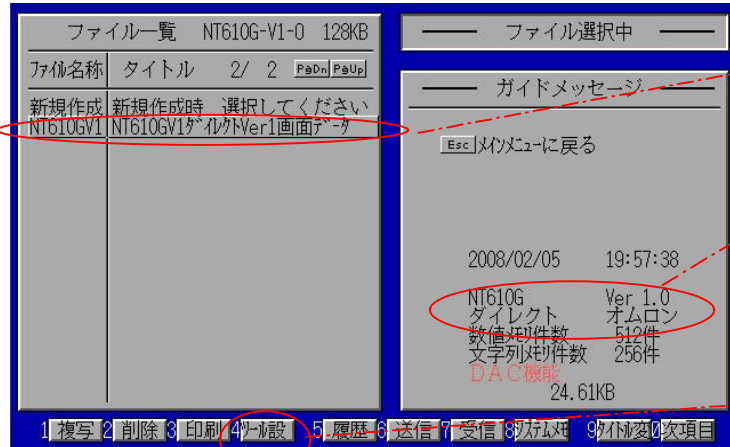
2) ファイルセーブされているディレクトリ
を指定していない場合、ツール設定へ
移行し、データディレクトリを指定しま
す。

② ツール設定



3) "データディレクトリ" を画面データ
保存先のディレクトリを指定します。
指定後、[実行]にて設定を保存します。
*①の画面へ戻り、画面作成を実行し③へ
移行します。

③ NT61□G画面の指定



- 4) ファイル一覧にて、ファイル変換(コバート)対象のファイルが表示されていることを確認します。
*ファイルが表示されない場合、②にてデータレトリを確認ください
- 5) ファイルにカーソル配置すると、"ガイドメッセージ" にファイル情報が表示されます。
- 6) 「F4」にてツール設定に移行します。

上記は「ダイレクト：オムロン Ver 1」の場合を示しています。

「ダイレクト：オムロン Ver □」の場合は④にてダイレクトアクセスを「Ver □+1」を選択してください。

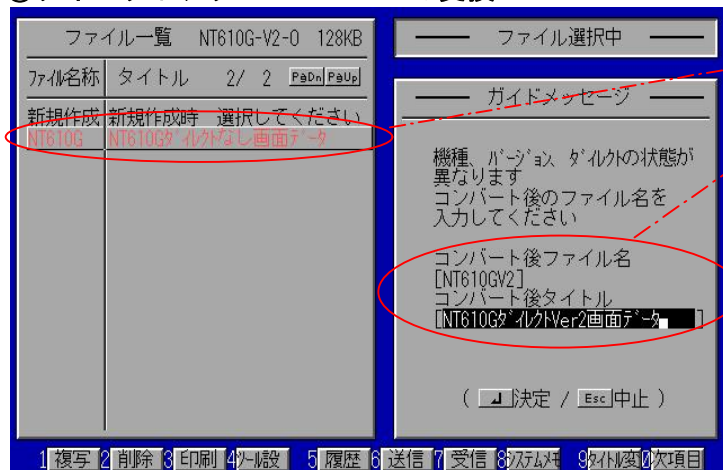
④ダイレクトアクセス Ver 2を選択



- 7) 「F1」 (形式選択) を実行し
[NT610G/NT612G] NT610G-SMR*-V1 仏 Ver2
を選択 → [実行] し、ファイル一覧へ戻ります。

本体/ROM形式	ダイレクト機種	バージョン	備考
[NT610G/NT612G]			
NT610G-SMR0*	なし	Ver1	RS232C-BUS/2-DM方式
NT610G-SMR3*	仏	Ver1	上位リンク-C200H
NT610G-SMR3*	三菱A	Ver1	計算機リンク
NT610G-SMR3*-V1	仏	Ver2	上位リンク-C200H
NT610G-SMR3*-V1	三菱A	Ver2	計算機リンク
NT610G-SMR3*-V2	仏	Ver3	上位リンク-C200H-BUS/2-NTリンク
NT610G-SMR3*-V21	仏	Ver4	上位リンク-C200H-NTリンク

⑤ダイレクトアクセス Verの変換



- 8) 赤反転しているファイル名にカーソルを置きリターン実行します。
- 9) ガイドメッセージに、コンバート(機種変換)後のファイル名、タイトル指定項目が表示されます。ファイル名、タイトルを入力後エンター実行します。
*NT610G のダイレクトアクセス Ver1→Ver2 へ変換します。
*変換前画面が「ダイレクト：なし」の場合は、この時点で機能部品のアドレスは全てクリアされますのでご注意ください。
(ダイレクト：オムロンの場合はそのままアドレスが変換されます)

⑥ダイレクトVer4に変換



10) 上記③～⑤と同操作にて、ダイレクトアクセス Ver3→Ver4へ変換します。

11) サポートツールを終了します。

上記変換にてNT610G画面データ（DOS版）がNT610GのダイレクトVer4（DOS版）に変換されました。

2. NT61□G画面データをNS10→NS8に変換

P8の「⑥ダイレクトVer4に変換」にてNT61□GダイレクトVer4に変換した画面データを以下の要領でNS10に変換します。

(NS10に変換した後、NS10→NS8に画面変換します。)

1. NT31C_NT631C変換支援ツールの起動

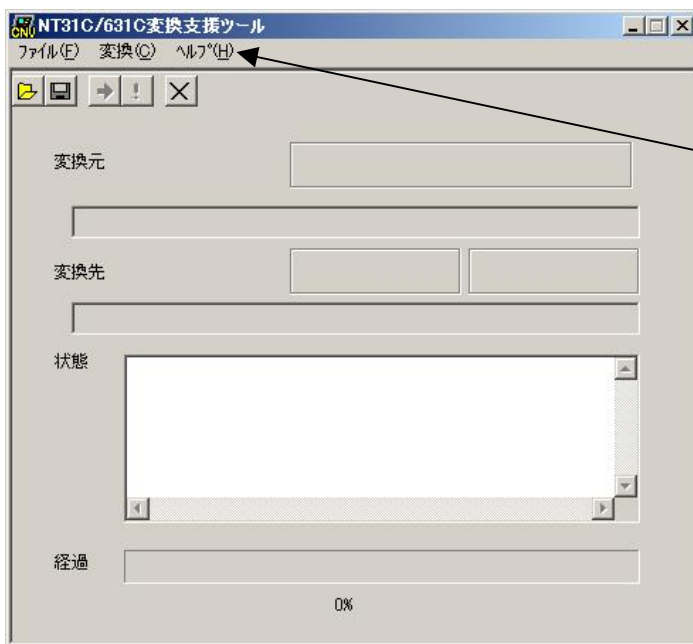
「NT31C_NT631C変換支援ツール」を次の手順で起動します。

・[CX-Oneをインストールした場合]

「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-One」→「CX-Designer」
→「NT31C_631C変換支援ツール」

・[CX-Designer単体をインストールした場合]

「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-Designer」→
「NT31C_631C変換支援ツール」

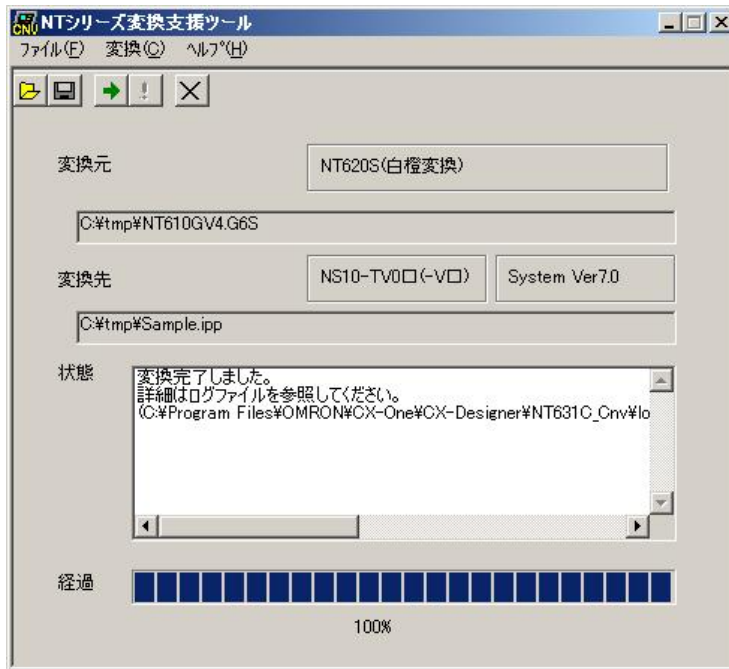


NT61□GダイレクトVer4画面データ(DOS版)を直接NS10画面データに変換するには、**Ver4.10以降**の「NT31C/631C変換支援ツール」が必要です。
バージョンは「ヘルプ」→「バージョン情報」にて確認できます。

Ver4.10以降の「NT31C/631C変換支援ツール」はCX-DesignerVer2.1以降をインストールすると自動的にインストールされます。

2. NT61□G→NS10画面コンバート

- ①「ファイル」→「変換元ファイルを開く」で、P8にてNT61□GダイレクトVer4に変換したファイル(**.G6S)を選択する。
- ②「ファイル」→「変換後ファイルの保存先」にてファイルの保存先とファイル名を指定する。
- ③「変換」→「変換実行」にて変換を開始する。

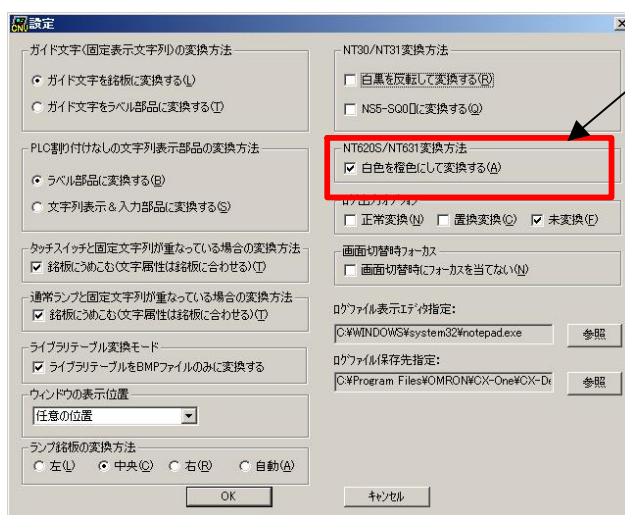


左記例は、変換元ファイル＝
C:\tmp\NT610GV4.G6S を変換先フ
ォルダ－＝C:\tmpに Sample.ipp と
して変換しています

④ 「NT31C_NT631C変換支援ツール」を終了します
変換完了後、「×」ボタンを押します。

3. NS変換画面をEL色（橙と黒）で変換したい場合

NT61□GがELのため、NS8に置き換え時表示色をEL表示（橙と黒）で変換した
い場合は、「NT31C_NT631C変換支援ツール」の「設定画面」で



NT631 変換方法：白色を橙色で変換する」
にチェックを入れてください。

「NT31C_NT631C変換支援ツ
ール」の設定画面は「変換」→「設定」で開
きます。

4. 「CX-Designer」を起動

「CX-Designer」を起動します。

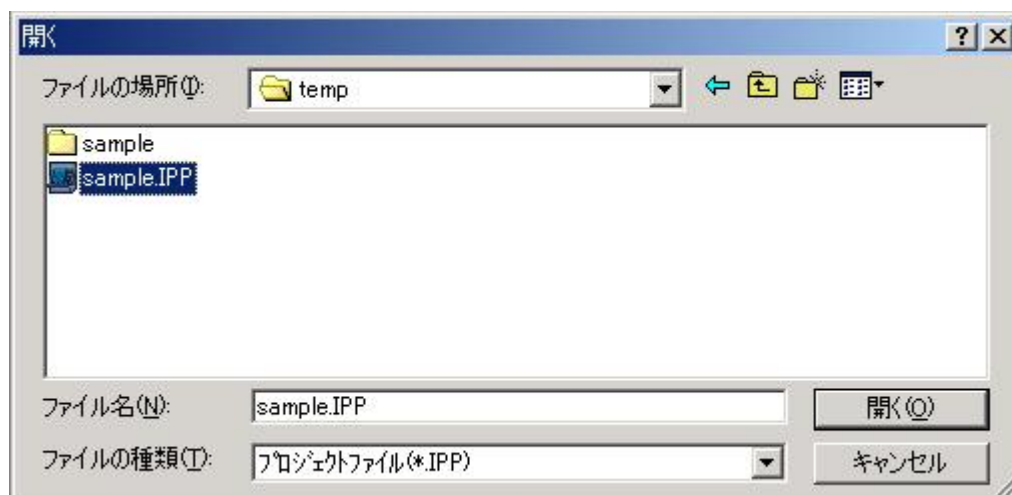
- ・ [CX-One をインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-One」→「CX-Designer」
- ・ [CX-Designer 単体をインストールした場合]
「スタートメニュー」→「全てのプログラム」→「Omron」→「CX-Designer」

5. NS10→NS8画面コンバート

NS10画面を「CX-Designer」にてNS8に変換します。

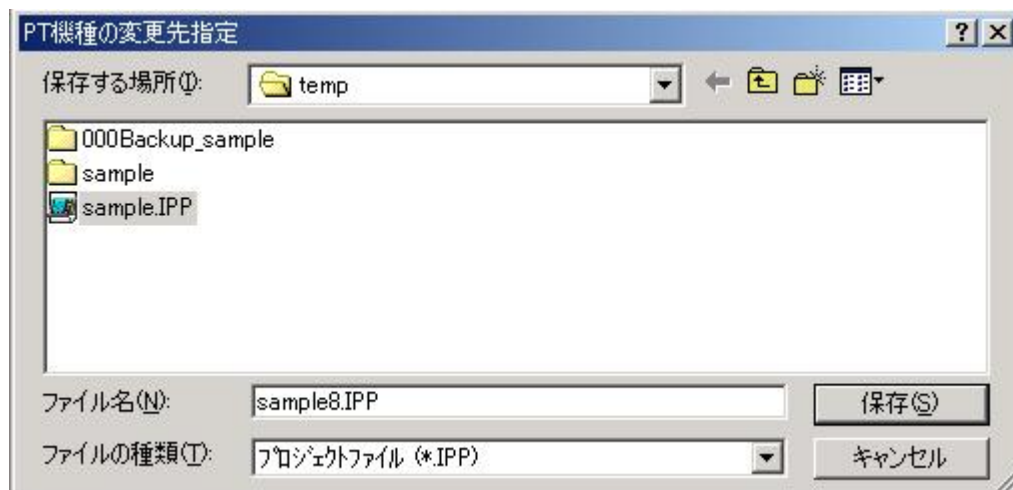
① NS10画面のプロジェクトを開きます。

[ファイル]→[プロジェクトを開く]にてP9の「2. NT61□G→NS10画面コンバート」で変換先に指定したフォルダのファイル（ここでは、Sample.ipp）を指定し、[開く]を押します。



② NS10→NS8に機種変更します。

[ツール]→[コンバート]→[機種]にて[NS8-TV0□-V2]を選択します。
変更先のファイル名（ここでは、Sample8.ipp）を指定し、「保存」を押します。



3. NS8画面データの修正

1) NS8変換後の画面データについて



NS8へ変換後の画面データは、変換元画面データがNT61□G（640×400ドット）のため画面した80ドットが黒（背景色）のまま変換されます

NS8に変換後の画面データは画面下80ドットは黒のまま変換されます。



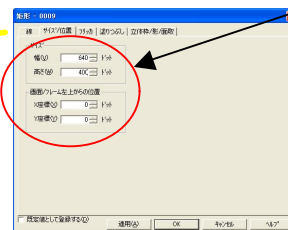
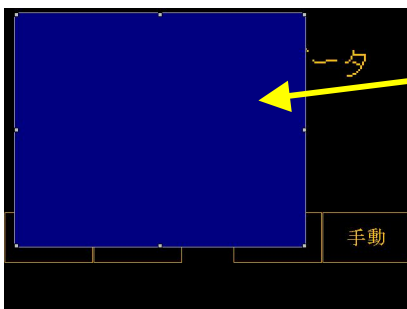
以下の手順で画面データを縦に1.2倍に拡大することでNS8の640×480ドットに拡大が可能です。

注意！

全画面をNS8の640×480に拡大するには、下記操作を全画面に対し実施する必要があります。

2) 画面データの拡大方法

- ①画面上に<図形>→<矩形>にて矩形図形を置き、プロパティにてサイズと位置を以下とし、「適用」または「OK」を押下します。



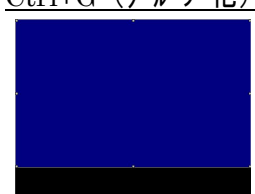
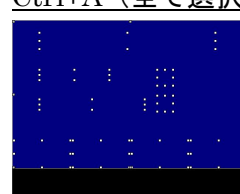
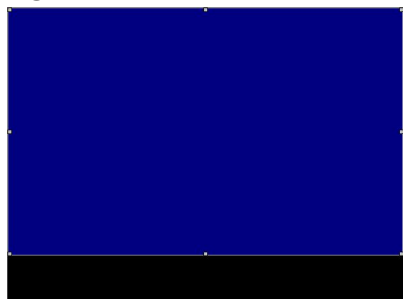
サイズ
幅：640ドット
高さ：400ドット
画面／フレーム左上からの位置
X座標：0
Y座標：0

- ②「適用」または「OK」押下により画面は以下の様に矩形図形により画面が覆われます。

以下のショートカットキー操作を行い、画面データと矩形図形をグループ化します。

Ctrl+A（全て選択）

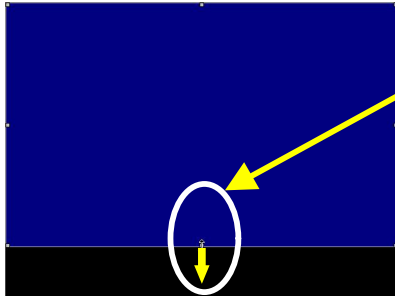
Ctrl+G（グループ化）



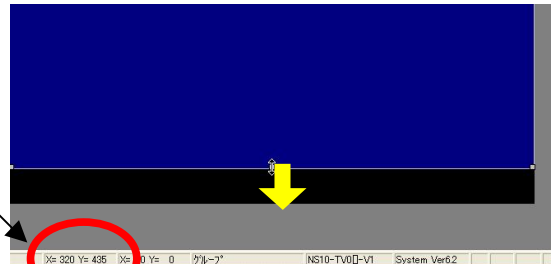
変換画面と矩形図形が選択されます。

変換画面と矩形図形がグループ化されました。

③グループ化された画面データと図形を引っ張ります

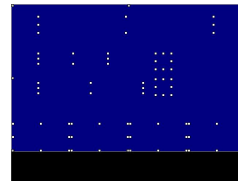
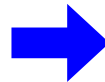
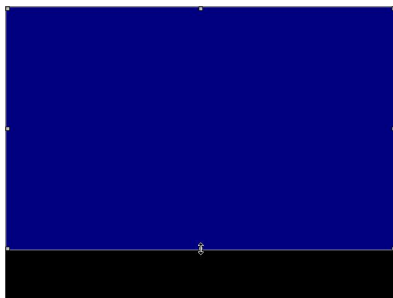


グループ化された部品の中央下部にカーソルを当て左クリックにて部品をつまみ下側に引っ張って下さい。



画面下側に現在のカーソル位置が表示されますのでY座標が480（画面の黒い部分まで）になるまで部品を引っ張って下さい。

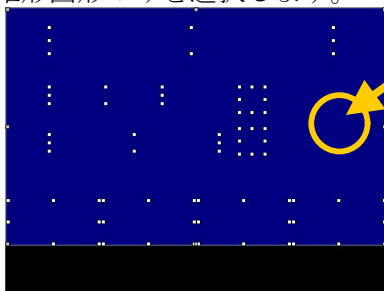
④画面データと矩形図形のグループ化の解除



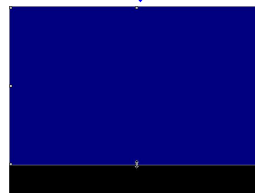
Ctrl+U（グループ化解除）ショートカットキーにより、画面データと矩形図形のグループ化をはずします。

Ctrl+U（グループ化解除）実行

⑤矩形図形のみを選択します。



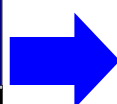
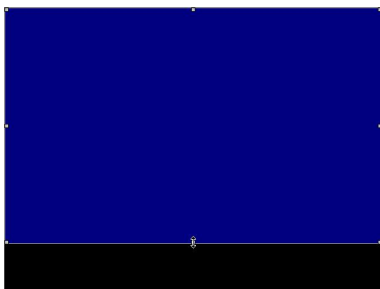
部品の何も無い所をクリックし、矩形図形を選択します。



矩形図形のみが選択されました。

⑥矩形図形を削除します。

矩形図形が選択された状態でDELキー（または右クリックで削除）を押下し、矩形図形を削除します。



するとNS8の全画面にNT61□G画面が拡大されます。

4. NS8変換画面の修正

NT61□G画面データがNS8画面データに変換されましたが、NT61□GとNS8では互換性がない箇所がありますので、変換後のNS8の画面データの修正が必要になります。修正箇所に関しては、付録「NT→NS画面変換後の注意点」を参照願います。

5. 画面データの転送

CX-Designerにて上記の修正画面をNS8に転送します。

- ①転送方法を選択します。
[PT]－[転送]－[転送設定]にて通信方式（USB、Serial等）を選択します。
- ②画面データを転送します。
[PT]－[転送]－[転送[パソコン→PT]]を選択します。

1-3-2) : ホスト側プログラムの変更について

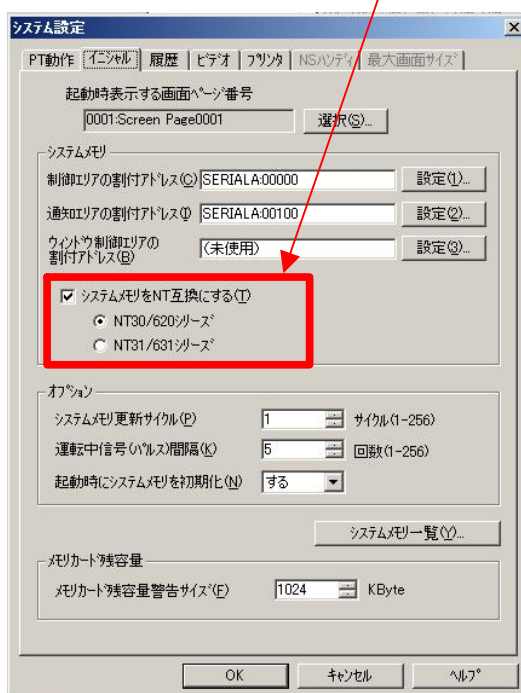
1. PT状態制御／通知エリアについて

PTにはPLC-PT間で情報をやり取りするエリアがあります。この情報をやり取りするエリアを、NTシリーズでは「PT状態制御エリア／PT状態通知エリア」、NSシリーズでは、「システムメモリ」と呼びます。

NTシリーズの「PT状態制御エリア／PT状態通知エリア」とNSシリーズの「システムメモリ」では、メモリ構成に違いがありますが「NT31C_631C変換支援ツール」Ver 4.10を使用しますと、変換後のNSシステムメモリがNT61□Gの「PT状態制御／通知エリア」と互換性のある形（NT30/620シリーズ互換モード）で変換されます。

◆NT30/620互換モードについて

「NT31C_631C変換支援ツール」Ver 4.10以降を使用しますと、NT61□G → NS10変換時に「NT30/620シリーズ互換モード」で変換されます。



◆ 「NT30/620互換モード」のシステムメモリについて

「NT30/620互換モード」ではシステムメモリが以下のように変換されます。

状態制御エリア				状態通知エリア			
オフセット	ビット	内容	NSシステムメモリでのアドレス	オフセット	ビット	内容	NSシステムメモリでのアドレス
制御エリア				通知エリア			
+0	0-15	画面番号(PLC→PT)	\$SW0	+0	0-15	画面番号(PT→PLC)	\$SW0
+1	0-15	予約		+1	0-15	予約	
+2	0-15	予約		+2	0-6	予約	
+3	0	予約		+2	7	フロッピー稼働状況	\$SB30
+3	1	アラーム履歴初期化(NT31/631)	\$SB32	+2	8-11	予約	
+3	2-6	予約		+2	12	画面切替スロープ	\$SB2
+3	7	画面印刷	\$SB25	+2	13	バッテリー	\$SB4
+3	8	バックライトモード	\$SB10	+2	14	予約	
+3	9	断続フザー(長音)	\$SB14	+2	15	PT稼働状況	\$SB1
+3	10	予約					
+3	11	アラーム履歴初期化(NT30/620)	\$SB32				
+3	12	断続フザー(短音)	\$SB13				
+3	13	連続フザー	\$SB12				
+3	14-15	予約					

「NT30/620互換モード」を使用しても以下の ➡ 印部は対応する機能がNSにありませんのでご了承ください。

PT状態制御エリア

PLCのCH	NT61□Gの割付	NSのシステムメモリ
n	画面番号：画面切替指定 (BCD4桁)	\$SW0
➡ n+1	コピー元メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
➡ n+2	コピー先メモリテーブル番号 (BCD3桁)	機能なし
n+3	PT状態制御ビット	\$SB* 次ページの「PT状態制御ビット」 を参照して下さい。

PT状態制御ビット

ビット	NT61□Gの状態制御ビット	NSのシステムメモリ
15	画面表示 する／しない	機能なし
14	アラーム出力 ON／OFF	機能なし
13	連続ブザー 鳴らす／止める	\$SB12
12	断続ブザー（短音） 鳴らす／止める	\$SB13
11	表示履歴初期化 する／しない	機能なし
10	未使用：常に0	—
9	断続ブザー（長音） 鳴らす／止める	\$SB14
8	未使用：常に0	—
7	画面印刷 する／しない	\$SB25
6	ウィンドウオープン 禁止／許可	機能なし
5	数値・文字入力 禁止／許可	\$SB19
4	未使用：常に0	—
3	未使用：常に0	—
2	未使用：常に0	—
1	未使用：常に0	—
0	未使用：常に0	—

PT状態通知エリア

PLCのCH	NT61□Gの割付	NSのシステムメモリ
m	画面番号（BCD4桁）	\$SW0
m+1	数値メモリアドレス番号 （BCD3桁）	機能なし
m+2	PTステータス通知ビット	\$SB* 下記「PTステータス通知ビット」 を参照して下さい。

PTステータス通知ビット

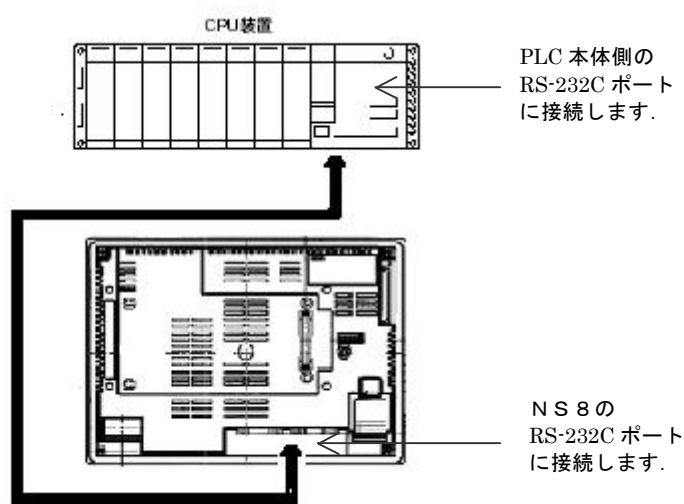
ビット	NT61□GのPTステータス通知ビット	NSのシステムメモリ
15	PT稼働状況 運転中／停止中	\$SB1
14	未使用：常に0	—
13	バッテリー 低下／正常	\$SB4
12	画面切替ストローブ 切替あり／なし	\$SB2
11	数値入カストローブ 入力あり／なし	機能なし
10	数値入カストローブ 入力あり／なし	機能なし
9	未使用：常に0	—
8	未使用：常に0	—
7	プリンタ稼働状態 印刷中／停止中	\$SW30
6	未使用：常に0	—
5	未使用：常に0	—
4	未使用：常に0	—
3	未使用：常に0	—
2	未使用：常に0	—
1	未使用：常に0	—
0	未使用：常に0	—

1-3-2) : C200H I/F置き換え時の注意点

NT61□GのC200H I/F通信→NS8の上位リンクあるいはNTリンクに置き換えは、C200HのCPUユニットのRS-232Cポートを使用します。

- ◆C200HのCPU装置にRS-232Cポートが使用できる（空いている）場合はそのポートに接続します。
- ◆C200HのCPU装置のRS-232Cポートが使用できない場合は、PLCのCPU装置に上位リンクユニットあるいはコミュニケーションボードを新たに装着する必要があります。
- ◆PLC側がC200Hシリーズの場合も同様に、CPU装置のRS-232Cポートに接続します。
C200HシリーズでRS-232Cポートが使用済みの場合は、通信ユニットが増設できませんのでNS8への置き換えはできません。

◆NS8の上位リンク/NTリンクの通信ケーブル配線



1-3-3) : NS8の設置について

NS8を制御盤に取り付け、PLCと接続します。

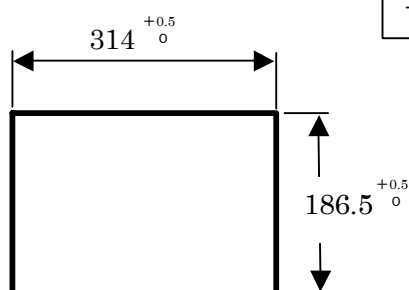
1. アタッチメント (NS8-ATT02) の取り付け

NS8はNT61□Gと比べサイズが小さく、パネルカット寸法も小さくなっています。
NT61□Gを取り付けていた制御盤にNS8を取り付ける場合は、下記のアタッチメントを制御盤に取り付けた後、NS8を取り付けて下さい。

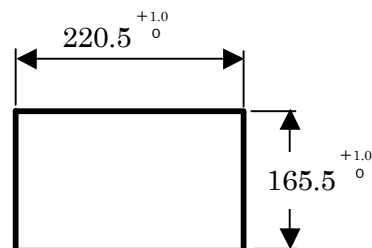
NT61□G→NS8用アタッチメント：形NS8-ATT02

◆パネルカット寸法の違いとアタッチメント

●NT61□G 推奨パネルカット寸法



●NS8 推奨パネルカット寸法



●NS8 取り付け用アタッチメント
形 NS8-ATT02



2. NS8の操作盤への取り付け

アタッチメントを制御盤に取り付けた後、NS8を取り付けます。
取り付けはNS8付属の専用取り付け金具を使用します。

3. 電源などの接続

NT61□GとNS8は電源電圧が異なります。
NT61□Gの電源電圧はAC100Vですが、NS8はDC24Vです。
NT61□Gの電源をそのままNS8に配線しないで下さい。
必ず、AC100V→DC24Vに変換する電源を別途ご用意願います。

4. NS8の通信設定

PLCとの通信方式等の通信設定をNS本体のシステムメニューで設定します。

システム設定

- ・ NS本体のタッチパネルの4隅のうち任意の2個を同時に押し「システムメニュー」に入ります。
- ・ 「システムメニュー」の画面の「通信設定」タブを押します。
- ・ 通信方式や通信条件を設定します。
- ・ 通信以外にもPT動作にかかわる各種設定を行います。

設定内容の詳細については「NSシリーズセットアップマニュアル (SBSA-517)の6章「システムメニューの操作」を参照ください。

補足：通信設定やシステム設定は、CX-Designerのプロジェクトワークスペースの「通信設定」、「システム設定」で設定することができます。